

壁紙紀行 ハイムテキスタイルレポート 前篇

ハイムテキスタイル(以下ハイムと略)ハイム会場は信じられないぐらいに広い。

すべての商材を取り上げたらきりがないので、壁紙ホールの3号館に絞ってレポートしたい。注目のブースを紹介しよう。

最初はドイツ企業のテクノセルである。

現在、もっとも注目されているフリースメーカーで、日本人スタッフの横須賀さんが対応していた関係で日本からのビジターが千客万来であった。

次にベルギーのアルテはテクスチャーが摩訶不思議な壁装材をブース壁面に張って注目を浴びた。

今回はエコロジーを意識した商品やデザインがやたら目についた。

同様にデジブリ壁紙のデザインも自然素材調のものが多かった。このジャンルのカラーはグリーン。

それと特筆すべきは利益の出ない低価格品から脱却して高級品へ向かおうという動きである。

その代表がマルブルグ社のメタリック調壁紙で、ベースに金箔や銀泊を使い、さらに豪華さを演出するためパールやガラスビーズを使った商材も目についた。

今回もドイツ壁紙協会プラント会長と意見交換したが、「ハイブリッドの時代」を強調していた。

ハイブリッドを分解すると頭文字が「C」の3熟語で、コンプレックス・テクノロジー(複合技術)、コンポサイト・マテリアル(複合素材)、コンビネーション・デザイン(複合デザイン)である。

この3つのキーワードを理解することでトレンドを読み解くことができるのではないだろうか。

壁装新聞(第432号)より引用